

9月になりましたが、熱中症アラートが発令される暑さが続いている毎日です。この異常気象は 80年ぶり…と聞いて、そんな前にも 同じような現象があったことに驚きました。昨日は 危険が伴う気温上昇の中での戸外活動は困難と判断し、予定していた、成田消防署 立会いによる“総合避難訓練”を後日に延期しました。これからも 昼間は まだまだ厳しい暑さが残るようですが、見上げる空の高さや頬に感じる 朝晩の風の心地よさに、確かな季節の移り変わりを感じるこの頃です。毎日 頑張っている小さな子ども達一人一人の心身の健康を 十分に配慮しながら、去りゆく今年の夏の終わりを感しつつ、皆で楽しみ 過ごしたいと思っております。皆様も どうぞくれぐれも ご自愛ください。神様のお守りを お祈りしております。

さて、8月中旬からスタートしております合同保育、乳児と幼児の混合保育は、子ども達にとって、お互いの存在を認識し合い、それぞれの遊びや生活の面でも様々な刺激を感じ合っているようです。特に、りす組・ねこ組の乳児達の表情が 日を追う毎に明るく輝き、2階へ上がる階段の足取りが軽く とても嬉しそうです。幼児クラスのメンバー達も、ニコニコと温かな微笑みとまなざしで迎えています。自分達より小さな存在をいたわりながら 一生懸命に相手の気持ちを思いやって 優しく手を差し出したり、膝をかがめてそっと語りかけたり、肩に手をまわして満面の笑顔でスキンシップを楽しんだり…普段 見られない、柔らかかでおおらかな子ども達の表情やしぐさに頼もしさや逞しさを感じ、微笑ましく見守っています。一緒に行く朝の礼拝や おやつ時間も、まず 小さい仲間たちのことを優先して 年長組が中心となり共に分かち合う空間を大切にできるよう心配りをしています。始まった頃は なんだかぎこちなかったり 落ち着かなかったり…という子どもも 一日一日 “一緒にいる” という環境の中で、ふれあい、会話、見つめ合いなどのちょっとした交わりを通して 一人一人の視野が少しずつ広がり、心の扉が開かれ、それぞれの人間関係を築いていくきっかけへと繋がっていることを思われます。

保育園のみんな・クラスのみんな・わたし達ぼく達みんな…日々の保育の中で 私達保育者は “みんな” というこの言葉を よく用います。けれども、この概念は 子どもにとって大変難しいと痛感しています。自分も含めて このすべての存在を ひとつ残らず意識すること、それは時に、実際に目で見えているものだけでなく 想像力を駆使しイメージする必要もあります。“みんな＝ひとり残らず” という意識を子ども達がしっかりと持つためには ひとりひとりの存在を知ることです。クラス・年齢・性別などを超えて、ひとりの人としてお互いを知り合い、関わり 心を通わせ合い、お互いに寄り添い 思いやる…合同保育のささやかな時間ですが 私達保育者自身も含めて、みんなで育み合う大切な機会にしたいと思っています。つのぶえを通して神様から与えられた出会いを感謝し今年度後半の歩みの上にも、神様の豊かな祝福と導きがありますよう 心からお祈りしております。(石田 記)

「それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい。(ピリピ2：4)」